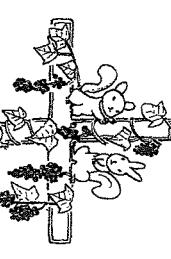


2024年10月
日本基督教団教会
No. 548

「天の国たとえ」

マタイによる福音書 13:44-50



教会では、マタイによる福音書に耳を傾けています。
「天の国のたとえ」には、3つのことが書かれています。
1つ目は「畠に隠された宝」、2つ目は「良い眞珠」、3つ目は「魚」。
畠に隠された宝」と「良い眞珠」もすべての財産を売り払ってでも手に入れたいものでした。これは、いくらお金も積んでも、お金いや計り知れない価値が天の国にあるということなんです。

『魚』のお話
聖書には、このように書かれています。

また、天の国は次のようにたとえられる。網が湖に投げ降ろされ、いろいろな魚を集める。網がいっぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いものは器に入れ、悪いものは投げ捨てる。世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々の中にいる悪い者どもをより分け、燃え盛る炉の中に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて歎きしりするだろう。

イエス様のたとえ話…種を撒く人や毒麦やこの魚のお話を聞く

と、私なんかは、どのたとえ話でも、だめな側になってしまふと感じるのです。

確かに立派な信仰をお持ちの方もいらっしゃいます。
ですが、大半の人にとっては、聖書を開いて読んでみる、教会に来て説教を聞く、そんなとき、「あー自分あかんわ」と思うことのほうが多いのではないでしょうか。

私たちは、救われるための条件は何か、という考え方とにとらわれていませんか?

私たちの救いは、私たちがどういう条件を満たしたら与えられる、というものではありません。主イエス・キリストは、私たちが救われるための条件を設定されたのではなくて、私たち罪人を愛して下さり、私たちの罪を全て背負つて十字架にかかる死んで下さったのです。そのキリストの真実、神様の愛こそが私たちを救うのです。
そして父なる神は、その主イエスを復活させて、私たちと出会いわせ、キリストを私たちの中に生かして下さっているのです。ものなおきせんせい(おはなし 霜野直紀先生)

